

○議長（作元 義文君） おはようございます。報告します。淵上清君、阿比留梅仁君より欠席の届け出がっております。

ただいまから議事日程第4号により、本日の会議を開きます。

日程第1. 市政一般質問

○議長（作元 義文君） 日程第1、市政一般質問を行います。

本日の登壇者は4人を予定しております。

それでは、届け出順に発言を許します。4番、小田昭人君。

○議員（4番 小田 昭人君） おはようございます。近未来研究会の小田昭人でございます。東日本大震災からきのうで丸2年を迎え、被災地では各地で追悼式典がしめやかにとり行われておりました。改めて犠牲となられた方々に哀悼のまことをささげるとともに、被災されました皆様が一日も早くもとの生活に戻るよう心から願うものであります。

この2年間、一日も早い復興・復旧という言葉は何百回、いや、何千回かもしれません。耳にしたことでしょうか。復興・復旧というのは、目で見て初めて実感できるものではないでしょうか。テレビで震災直後と現在の様子が比較放映されていましたが、復興・復旧どころか、地震発生の午後2時46分でとまっていた時計がやっと動き出したまま、2年間が過ぎ去ったような気がしてなりません。マラソンに例えるなら、やっとスタートした、いわば、現在進行形の状態で、フィニッシュラインの42.195キロのテープを切るには、あと10年はかかるものと私は思います。安倍政権のもと、被災地の復興・復旧が加速することを切望し、来年の3月11日は被災地の希望の光が力強く確かなものになっていることを期待いたします。

さて、私、今回、三本の矢を立てて質問するようにはしていましたが、一本の矢が折れた関係上、取り下げましたので、通告に従い、二本の矢で質問をさせていただきます。

1つ目は、元大洋真珠の跡地に建立されております行幸啓記念碑が韓国のオーナーから無償譲渡された場合、移転費用及び跡地整備について、対馬市が負担できないかをお尋ねいたします。

2つ目は、平成25年度の施政方針にも述べられていましたが、栄えある賞を受賞した若人等に対して支援をしていきたいとのことですが、具体的にどのような支援をするつもりなのか、お尋ねします。

1つ目の行幸啓記念碑は、平成2年5月20日、南高来郡国見町で開催されました第41回全国植樹祭に天皇皇后両陛下が出席の後、翌日の21日初めて対馬を御視察され、そのときに竹敷の大洋真珠の核入れ作業も視察されました。4年後の平成6年5月21日に大洋真珠が行幸啓記念として建立し、現在に至っております。平成13年12月に大洋真珠が閉鎖し、そして平成17年ごろに韓国資本が大洋真珠の跡地を購入し、現在に至っている状況であります。

大洋真珠が閉鎖して韓国資本にわたるまで約3年間の空白期間があったわけですが、この地は、昔は軍港、つまり、軍の港であった関係から、大洋真珠は、閉鎖後、隣の海上自衛隊に売買の申し込みを行いまして、海上自衛隊も購入したく、海上自衛隊佐世保総監部にもそのことを報告し、両者とも購入したいということで、防衛庁まで購入の計画を打診しましたが、最終的には防衛庁が購入を断念した経緯もございます。

また、韓国資本にわたった後にも、国防上好ましくないということで、国が買い取るという話も耳にしましたが、そのままの状態であります。そして超党派の国会議員団もこの地を視察されたことは皆様御承知のとおりであります。

移転先には竹敷の部落内を想定していますが、撤去の方法あるいは費用等の金額は私もずぶの素人で全くわかりませんので、その点はあしからず御了承願います。市長、よろしく願いいたします。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 小田議員の御質問に答える前に、昨日から今朝にかけて、3・11に関する報道がずっと流されておりました。昨日2時46分、ここで議会の場でも黙禱を皆さんと一緒にささげたわけですが、改めて、あのような報道を見るにつけ、早い復興というものを願ってやみません。

さて、その際も、東京のほうの慰霊祭でございましたか、天皇皇后両陛下が御臨席のもと、しめやかに行われておる情景もテレビで流れておりました。幾たびとなく、天皇皇后が被災地に足を運ばれ、皆さんを励ましをされてるのが、この被災以降の天皇陛下と国民とのかかわりというふうに感じておるところであります。

また、御質問の今パネルにあります、その行幸啓記念碑につきましては、私自身も何度となく現地で見ただけではありますが、設置に至る経緯につきましては、今、小田議員がおっしゃられたとおりでございます。この土地が防衛省が取得することがかなわず、そして民間資本に移り、さらに外国資本に移っていくというふうなことになったわけですが、そのことが露見したのは、市役所の前で、確か7月23日だったと思いますが、対馬は韓国の領土であるというふうな行動をされたのを受けて、この行幸啓の問題、そして、その所有の問題というのが国会のほうでも論議されたところでもあります。

その年の秋だったと思いますけども、私自身、国会議員、超党派の国会議員約40名ぐらいに、国のほうに来てくださいということで、私上京をしたことを今思い出しました。そのときに、ある議員のほうから私は1時間半ずっと責められたわけですが、何で私が責められたのかがよくわからない。国会議員がおっしゃられるに、行幸啓の記念碑がある場所、そして自衛隊の隣接地が外国資本に買収されること、これが地元自治体の首長として、きちんとした行動をとらないとい

けないじゃないかというふうな御指摘がありました。私は敢然として、その意見には反対意見を言いました。なぜならば、国のほうが土地所有というか、売買に関する制度というものを十数年前に事前届出制、一定の面積以上の場合ですね、事前届出制というのを導入をされてたのを、十数年前に事後届出制に変更をされた。その国の制度が間違ってるんじゃないかというふうに反論をさせてもらいました。もう一つは、自衛隊の施設、重大な任務を担っている防衛施設の横が外国資本に買われるとは何事かと、私に問い詰められました。私は、自衛隊の当然基地があることはわかっておりますが、そこにおける任務というのは皆目わかりませんというふうに答えました。あなた方国会議員はそれをわかってるのかと言うと、国会議員何十名かお集まりでしたけども、実際問題、防衛という大切な任務ではあるが、そこが何をしてるかということについては、確かに機密事項だから誰もわからない。そういう無責任は発言はやめてもらえないかというふうなやりとりを当時、憲政記念会館ですね、尾崎弴堂さんの立像がありますが、その場所で、マスコミを含め200人ぐらいの中で、真ん中に置かれて問い詰められたことを今思い出しました。私の横に平沼先生がお座りでしたけども、平沼先生のほうから、「呼んではみたものの、確かに難しい問題ですね」というふうに、最後、私のほうに声をかけられて、1時間半にわたる場面が終わったというふうなことがありました。その際も行幸啓のお話がありました。私ども天皇家を崇拝する一人の人間としても、その問題について、どのように対処していけばいいかというのは、当時からも考えておりますけども、いかんともしがたい。憲法との兼ね合いの問題もあろうかと思えます。自治体という公金、公の税金を扱うという中での公金扱いについてのそこの兼ね合いということについて、私どもにしばらくの間、研究の時間を与えていただきたいというふうにも思うところであります。

○議長（作元 義文君） 4番、小田昭人君。

○議員（4番 小田 昭人君） 今、市長は憲法上という、何か問題がある、政教分離を指してあると思いますが、宗教ではありませんので、憲法上は何ら問題はないと思います。

竹敷部落も、実は韓国資本にわたったころ、区長を中心にこのままではいけないということで、場所まで決めて動き回ったそうでございますけど、やはり、移転費用等の問題がありまして、断念をいたしております。実は、私、日本会議の対馬支部の役員もしております、この日本会議でも、この行幸啓記念碑の移転問題が出ました。韓国資本の土地に、そのままでは両陛下に対して大変申しわけないということが決定をされております。

もう一度、お尋ねいたしたいんですが、撤去費用だけでも負担していただければ、今ここに示しております記念碑そのまま再現ということは不可能でございましょうから、対馬の自然の石を土台として、有志を募り、なるべくお金のかからないようにと思っておりますが、再度市長にお尋ねいたします。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 公金支出と、そして今、私どもは市民協働という一つの方向性で物事をやっております。市民の皆様の汗を流す部分において御支援をさせていただくというふうな基本的なスタンスで物事を取り組んでおることも御理解をいただきたいというふうに感じます。

○議長（作元 義文君） 4番、小田昭人君。

○議員（4番 小田 昭人君） 事務所には女性の阿比留さん、女の方がおられます。私たちも実は困っておりますと。海上自衛隊を通じて観光客の方が中に入って散策したり、やはり、この記念碑を前に記念撮影をすると。そしてマナーの悪いドライバーは、そのまま敷地内に入って、そのまま車で帰るということで、韓国資本の方は韓国で畜産業を営んでおられます。社長さんでございます。

市長、国もですね、昨年ですか、李明博大統領が慰安婦の問題で、天皇陛下は韓国に来て謝るべきだという言葉を発表して物議をかましておられます。今は女性の朴槿恵ですか、大統領になっておりますけど。いつまでも、やはり、この韓国資本の地に、この行幸啓記念碑を置いていくということは両陛下に対しても申しわけないという気持ちでございますので、国に県に働きをお願いしたいと思います。

なお、日本会議にも国会議員が会員として多数おられますので、私たちも、この国会議員を通じて、何とか移転を実現したいと思っております。どうか、よろしく願いたいと思います。

次に、平成24年10月30日、上対馬とんちゃん部隊がご当地グルメB-1グランプリでシルバーグランプリ受賞、そして平成24年度第51回農林水産祭で見事日本一に輝き、天皇杯を受賞されました対馬真珠養殖漁業協同組合青年部に対しまして、改めましてお祝いを申し上げ、今後さらなる御活躍を期待する次第であります。

さて、天皇杯は農林水産省と日本農林漁業振興会の共催により、昭和37年度から実施され、平成24年度が第51回の農林水産祭ということになります。長崎県では27年ぶりに水産部門で日本一に輝いたわけでありまして。ちなみに、この天皇杯は毎年7部門、農産、畜産、園芸、林業、水産などなどで単純計算しますと、51回掛け7部門で357個の天皇杯となるわけでありまして、そのうち長崎県は11個、11個のうち3個が対馬で取得しております。市長はこの数をどう思われるでしょうか。お聞きいたします。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 今回の若い人たちの特に活躍ということ、そして二十六、七年前におきましても、やはり、あのときも20代の方でした。そういう方たちがまさに島を元気づけてもらっているというふうに思いますし、今回受賞された真珠組合の青年部につきましても、また二十

数年前の受賞された漁協青年部の皆様につきましても、これからの生業の一つの方向というものを皆さんでつくり出されたと思っておりますし、市としても支援というものをやっていきたいという考えは持っておるところでございます。

○議長（作元 義文君） 4番、小田昭人君。

○議員（4番 小田 昭人君） 市町村の数も平成の大合併前は3,100から3,200程度の数でありましたが、平成25年1月1日現在で、1,699市町村となっています。改めまして、対馬の天皇杯3個は対馬の貴重な財産であります。日本一に輝いた対馬真珠養殖漁業協同組合青年部ではあります。対馬の真珠業界も平成元年度で組合員数95、売上高約38億6,000万円、平成になってから平成9年度の46億900万円が最高の売り上げであります。平成13年度はアメリカの景気減速、日本の景気低迷に端を発し、平成13年度から平成19年度は売上高も激減し、十数億円となっています。さらに、平成20年度はアメリカの金融危機から世界の同時不況の影響も重なり、売上高も6億8,000万円まで落ち込んでおります。そして平成23年度が9億2,200万円の売上高で、やや持ち直しはしたものの、組合員数は平成元年度の95組合員数から46組合員数と半減しています。市長、この売上高、そして組合員数について、何か感想があればお聞きしたいと思います。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） かつて、浅茅湾を中心とし、真珠組合の方々が多くの生産をされ、そして、やはり、この対馬全体に活気というものを与えてもらっていたという記憶もございますし、それに付して、現時点においては世界中の景気低迷という部分もありましようけども、この真珠というものがなかなか、あのすばらしい輝きというものを世の中に出すことが難しくなっているというふうに感じておるところでございます。

○議長（作元 義文君） 4番、小田昭人君。

○議員（4番 小田 昭人君） 真珠業界も生き残りをかけて懸命に努力されておりますので、どうか物心両面にわたり、御支援を賜りますようお願いをいたします。

次に、とんちゃん部隊の豚はほとんどが外国産と聞いております。12月の議会定例会で阿比留梅仁議員も若干触れられていましたし、小川議員も昨日、遊休地を利用した農業の振興策について述べられていました。施政方針では、「複数の力の協力のもと」とか、「この島の再生は協働で」、また、「島が一致団結すれば、対馬は」とかの表現があら、こちらで語られていました。今、対馬はイノシシの島となっていますが、養豚の島にはいかがでしょうか。そして地産地消でなく地産外消で全国展開してはいかがでしょうか。市長のお考えをお聞きします。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 今回のとんちゃん部隊の活躍というものを受けまして、今、小田議員が

おっしゃられるような、この島で養豚をして、その肩ロースを使ってというふうな試みと聞いていますか、ことは以前あったとも聞いております。今、外国産の豚を、デンマークでしたかね、産を使ってありますけども、今の味つけに最も合うのがデンマーク産だったとも聞いた記憶もあるんですが、おっしゃられるように、この島内で産したやつを使うことによって、そこでさまざまな経済が回りますので、それは以前の、今、3業者か、4業者かいらっしゃいますが、それらの方にも相談は一度かけてみたいとは思っています。ただし、このとんちゃん部隊の人たちがシルバーグランプリをとってからというもの、実は私どもも、とんちゃん部隊にしてもしかりでございますし、真珠組合の青年部の方にしても同じなんですけども、どのような行政として支援をしてほしいだろうかという話をたびたび持ちかけてはおります。そういう中、特にとんちゃん部隊におかれましては、自分たちは基本的に行政依存というのからの脱却をしたいと。だから、支援というのを、直接的な支援というのは求めるつもりはありません。ただし、対馬に元気を出すための観光客等を受け入れるための環境整備はしていただきたいですねというふうな願いはされておるところでございます。今、北部での国際ターミナル整備等々の話し合いも持たれておりますけども、それをとんちゃん部隊の皆さんの考え方というものも十分に反映するような計画にしていきたいということで、今取り組みを活性化センターが中心となって、協議を進めておるようなところでございます。

話は戻りますけども、島内産の豚を利用してということについては、今それを製造されている方たちに協議を持ち込んでいきたいとは思っています。

○議長（作元 義文君） 4番、小田昭人君。

○議員（4番 小田 昭人君） やっぱり、個人では多角経営は無理かと思っておりますので、公設民営、民営といっても、公社、協業体等あたりで、今後話が進むことを切望いたします。

話は変わりますが、漁師部落で話を聞いてみますと、昔は漁火が海一面に広がり、まさに海の銀座でありました。ここ数年は漁火も、あちらにぼつり、こちらにぼつりと、そして燃料も高騰し、出漁しない漁師が急増したと聞いております。そして漁師を諦めて漁船を手放す人も数人あると聞いております。対馬市が誕生した平成16年は、対馬市の人口は約4万人だったと記憶をいたしております。合併後9年が経過しようとしている現在、対馬市の人口は約3万4,000人ですから、この9年間で6,000人の減少になったということになります。6,000人は豊玉町、峰町の人口を合わせた人口でございます。

市長、私は大胆な発想の転換も必要と思っております。私は以前から徳島県の上勝町に興味がありまして、テレビ、インターネット等でも紹介されてはいますが、人口約2,000人、世帯数850世帯、人口の45%が65歳以上で、町の総面積は109.68キロ平方メートルでございます。85%が山林で、もともと木材とミカンの産地として発展したそうであります。JAの

元職員の横石知二さんが考案された葉っぱビジネスで年商2億円。野山などにありますツバキの葉っぱ、ナンテン、柿の葉、梅、桜、桃の花など、高級料亭と契約を結んでおられまして、生産農家の5割が60歳以上で、多くは女性と聞いております。この70、80の女性の方はタブレット端末を片手にパソコンも自由自在で、ネットワークを活用し、リアルタイムにその日の売り上げがわかるシステムを構築し、月の売り上げが100万円を超え、子や孫にまで葉っぱ御殿が新築されている町であります。対馬でも可能なビジネスだと思いますが、通告はいたしていませんでしたが、お考えがあれば、市長にお聞きしたいと思います。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 今、徳島県の上勝町の葉っぱビジネスの件のお話がありました。特に高齢者の方々がある意味地域資源というものの売り出し方というのに目覚めて、京都の料亭等で高く葉っぱが、葉っぱと言ったら失礼かもしれませんが、売れるというふうなこと、そしてIT社会に対応した機器を高齢者の方が駆使するというふうなことで、上勝町につきましては頑張っておられることは新聞報道等でも見させていただいております。私自身は足を踏み込んだことはございませんけども、お話を聞くにつけ、そのようなことがこの対馬においてもできないかというふうな思いはございます。ただし、やはり、そこにはJAさんという、元JAさんという大きなものを組み立てていくというコーディネーターが存在をしてるというふうに思いますし、今、私どもが進めております、また緒についただけなのかもしれませんが、地域マネージャーという一つの制度というのは、その地域における売り出し方とか、その地域をもっと元気づけていくための手法というのを地域の方々と見つけ出していくということが一つの使命もございます。それらの、昨日そういえば、一般質問の中で、足元に泉ありというふうな、私が日ごろ表現していることを取り上げて一般質問ございましたけども、各地域には、やはり泉がこんこんと湧き出てると思いますし、私は清い水が湧き出てると思っておりますので、どうか、それらを地域の方、そして行政の地域マネージャー、さらには前回の御質問の中で出てきましたが、集落側の代表としての集落支援員というものの制度を確立する中で、地域の発言の仕方というものをきちんと構築し、上勝町のような元気なお年寄りにあふれた町になっていきたいものだというふうに思うところであります。

○議長（作元 義文君） 4番、小田昭人君。

○議員（4番 小田 昭人君） 対馬には、まだ、野、山、そして樹木にしても、貴重な財源があるものと私は思っております。どうか前向きに、この90%が山であります対馬のこの資源を生かして、全国PRをしていただきたいと思います。

メインの質問を取り下げましたので、少々時間がございますけど、これで私の一般質問は終わらせていただきます。どうもありがとうございました。